

第2回幹事会資料

平成31年2月15日

1. 第6回すずらん塾開催報告

1月25日（金曜日）旭川西高の体育館で授業として1、2年生全員に向けて開催。
講師は、札幌医科大学の学長・塚本泰司氏（西高17期）演題は「医療系大学を目指す」

マンガやクイズをまじえながら、生徒たちのこれからのキャリア形成に有意義な内容の講演でした。

「医療系大学卒業後の進路は、医師にとどまらず、看護師、薬剤師、理学療法士、作業療法士、臨床検査技師、保健師、放射線技師など多岐にわたり、さらには介護、福祉の分野でもさまざまな専門家への道が開かれている」と説く。また「医療福祉従事者に必要なことは健全な常識を持っていることで、特別な才能はいらない」とも語られました。

医療系大学の卒業後については、多彩なキャリアの可能性がある一方で、ぜひこれからの選択肢のひとつとして医療系大学を考えて良いのではないかと生徒たちに進言した。

札幌医科大学は神経再生医療を世界で初めて成功させ、骨髄から幹細胞を採り培養して患者に戻すことで、頸椎骨折などにより動かなくなった手足を再び復活させる最先端医療で世界から注目を集めている大学でもある。移植後8週間で階段の上り下りや走るまでできるようになった患者さんの動画を生徒たちが真剣に見つめている光景が印象的だった。

翌日、買物公園で出会った西高女生徒ふたりに、荒川会長が昨日の塚本先生のお話はいかがでしたかと尋ねたところ、「たいへん面白く、役に立った」、もう一人からは「看護師になりたい」といった感想が聞けたという。すずらん塾が西高生の間に確実なシーズを育て、芽吹かせている。東京同窓会としては、こんな嬉しいことはない。

医療・介護・福祉の道を目指すわれらが後輩たちに声援を送りたいと思います。

2. 若年期対策

次世代の東京同窓会を盛り上げていくには、若手の参加を呼びかけていかなければなりません。東京同窓会のもっともネックとなっていたところですが、2017年に若年期から先輩たちとゆっくりした交流の機会を作りたいという声が上がって、「ニッシーズ」というプチ同窓会を企画しました。

第1回は、14名の若年期が参加（執行部からは11名参加）。今回から名前を「プチ同窓会N-iSeeds（ニッシーズ）」と変えて、38期が中心となり企画立案してくれました。本来ならば、昨年末に開催する予定でしたが、準備が遅れて2月17日（日）の開催となりました。

今回は、20歳代、30歳代の参加を促すために会費を無料としましたが、うれしいことに12名（48期2名、50期4名、56期3名、61期1名、66期2名）の参加が期待されています。その会費を支援することとなりますが、ご理解ください。

この他に、37期の3名から入会申し込みがありました。

3. 総会準備に関して

第三回幹事会は、3月29日（金）18時から 新橋101号室を予定
準備状況は、実行委員会より説明します。（別紙）